

■北風と太陽、力では解決しない

修正： 2022.07.01

投稿： 2022.07.01



●北風と太陽、力では解決しない①

いつの日か、中学校の校長が、

「女性にとって最も大切なことは、子供を2人以上生むこと」

と発言し、(悪い意味で)ニュースになりました。

騒がれたことに対して校長は、

「間違った発言とは思っていない」と述べておられましたが、

この発言で余計に炎上したものです。

※逆に校長を擁護する声も多々上がっていましたが。

そもそも、コミュニケーションに**正しさ**を求めても、

意味がありません。なぜなら、正しいかどうかは

相手が決めることであり、その正しさというものは

立場や目的によってコロコロ変わるからです。

人によって立場や目的は違うのですから、当然、

正しいかどうか人も人によって違うのです。

自分は間違っていない、そのことを理解してほしい、

というのは、単なる意見の押し付けです。

それでは誰も心を開こうとはしないことでしょう。

イソップ寓話に「**北風と太陽**」という話があります。

//-----

北風と太陽が、旅人の上着を脱がそうとしました。

まず北風が、上着を吹き飛ばそうと風を吹きます。しかし、

強く吹けば吹くほど、旅人は吹き飛ばされないように

身を固めてしまい、上着を脱がすことはできませんでした。

一方、太陽は、旅人を照らしました。すると、

体が温まった旅人は、自然と上着を脱ぎました。

//-----

という話です。人間、何かと、自分の意見を押し通そうと、

「自分は正しい、相手は間違っている」と主張するものですが、

主張すればするほど、相手から距離を置かれてしまうものです。

力では解決しないのですよ。

(続)

//=====//

●北風と太陽、力では解決しない②

時計が壊れたので、新しく時計を買って帰ると、
壊れたはずの時計が正常に動作していました…。

//-----

引き続き、中学校の校長が、
「女性にとって最も大切なことは、子供を2人以上生むこと」
と発言し、騒ぎとなった事例を取り上げます。

仮に自分が正しくとも、相手が感情的になっている場合は、
自分が正しいことを主張しない方が安全です。
感情的になっている相手には話が通じないからです。

そもそも、どんなに正しい意見を述べたとしても、
相手によってはそれを問題視してくるもので、
炎上するときは炎上するものです。ゆえに、

コミュニケーションに絶対的な正しさを求めても、
仕方がありません。立場や目的が変われば、
正しさなんてものはコロコロ変わるわけですから。

だからお互い、相手の立場や目的を重んじて、
相手目線でコミュニケーションを図るべき、という話です。が、
なかなかそうはならず、やはり、

「**自分は正しい、相手は間違っている**」などと、
相手に正しさを求めてしまうものです。なぜか？

そうした方が頭を使わずに済むからです。

もし相手の立場や目的を重んじるとなれば、
知りたくもない相手のことを知らなければならなくなります。
となれば、間違っていると思える相手の主張にも、
耳を傾けなければならなくなります。

それは非常にめんどくさい。

だから自分の意見を一方的に主張する、
というのであれば**北風**です。相手に自分の意見を聞いてほしいなら、
まずは率先して相手を理解していかなければなりません。
「**理解して理解される**」、**太陽**のようであればならないのです。

(続)

//=====//

●北風と太陽、力では解決しない③

人間関係とは、お互いに**相互作用**する関係なのであり、
どちらか一方がどちらか一方に一方的に影響を与える、
というようなものではありません。ゆえに、

相手が変われば、それは人間関係にも影響が現れます。よって、

今まで通りに接すれば、自然と人間関係は崩れていきます。
つまり、人間関係を維持させるためには、相手の変化に応じて、
こちら側も変化していかなければならない、ということです。

例えば、親子関係であれば、
子供は親の想像以上に成長(変化)しているわけであり、
いつまでも「子供扱い」しては、
親子関係も崩れていきます。

「昔はいい子だったのに…」って、
それは昔の話であって今ではありません。
子供は変わってしまった以上、
親も親で変わっていかなければならないのです。逆に、

親も年を取り、昔はできていたことができなくなります。
子供からして、親は助けてくれる存在ではなく、
助けてあげなければならない存在になるのです。
そうして親が変わってしまった以上、
子供も子供で変わっていかなければならないのです。

これは、親子関係のみならず、
上司部下関係でも、お客様関係でも、師弟関係でも同様です。
人間関係を維持させたいなら、相手の変化に応じて、
こちら側も変化していかなければなりません。

そうしなければ相手を正しく理解できないからです。
相手を理解できない以上、相手と仲良くすることもできません。
北風と太陽のように「理解して理解される」です。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)